

待 18
卷 57

繪本古図記五篇卷之七

目錄

長曾我部元親秀吉之屬幕下居

秀吉之次和氣乃城と攻る國

秀吉之任國白居

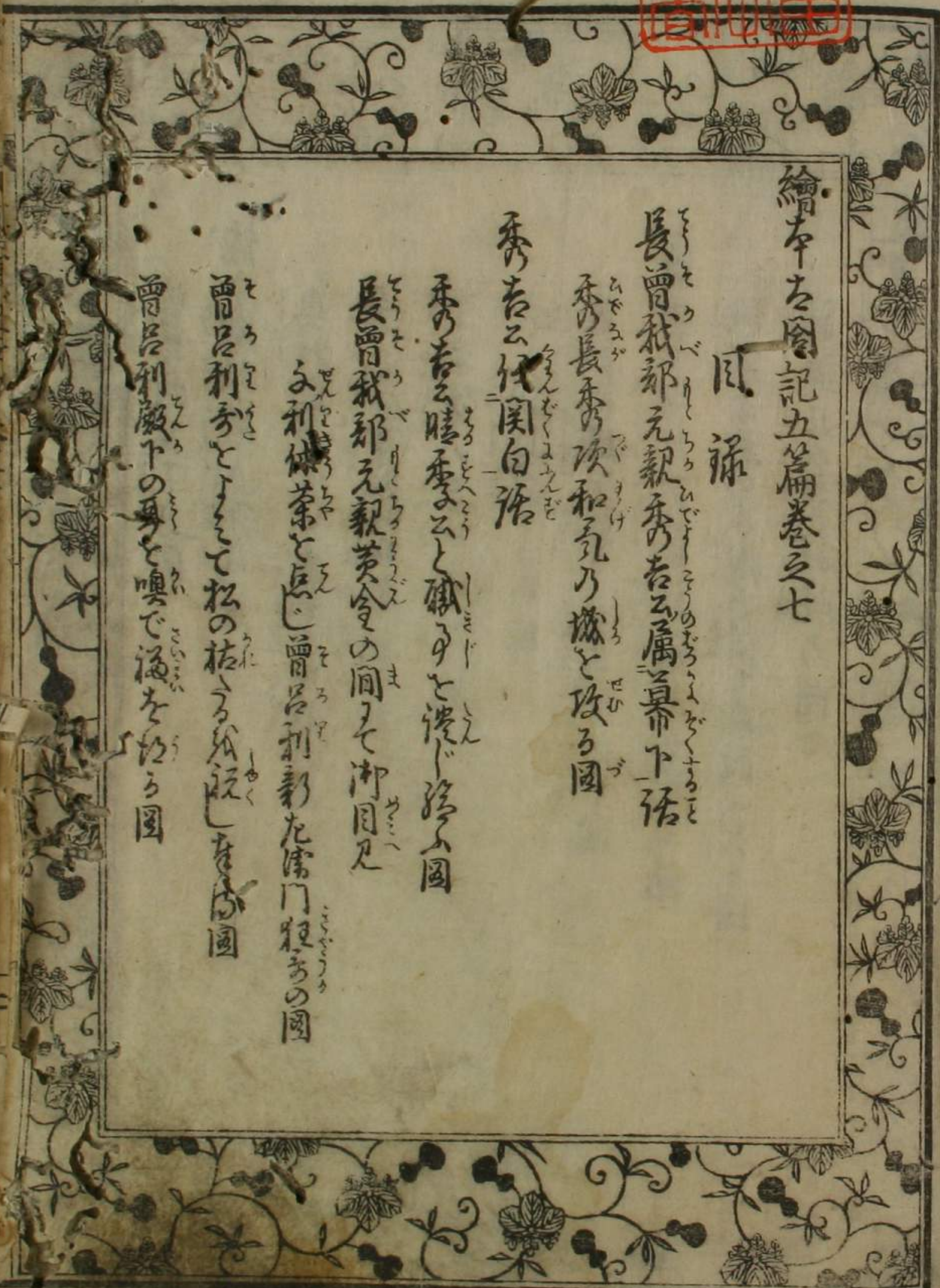
秀吉之睦妻云と獄とと渡り居る國

長曾我部元親美令の圖して御目見

又利休茶と点じ曾呂利親を津門程々の國

曾呂利親とよして松の枯る成候しを成國

曾呂利親下の身と嗅で海をわら國



曾呂利寓云乃圖

佐政政文、誠之信

奥村助右衛門が妻士率と劬以圖

奉家末赤林の城後浩の圖

ト若軍の吉凶を占ふ圖

又、誠送落し乃圖

成政酒と沽くを瓦と凌ぐ圖

秀吉云誠中發向津通川合我之信

同若系都の女術と定て成政よ告る圖

津通川合我妖怪乃圖

繪本右圖記五篇卷之七

長曾我部元親秀吉云屬旗下

若生と攝る者、陸よ幼とて兇虎、遇以軍に今く、甲兵を被ら、兇

其其角と投とるをわく、虎も其爪を攝る、兵も其又容を、何

其其死地をを等り、秀吉云の仁勇天下に、普く征とる、困及、服

成所の人牧悉く、順い、津ら、此所、守、長、秀、家、子、石、權、平、足、田、勘、玄、清、等

濱州、居、信、の、城、と、美、海、又、尾、利、三、家、の、軍、勢、任、豫、團、合、子、の、城、と、接、僅、十、余

日、の、間、上、方、勢、所、の、要、宮、依、美、崩、勢、ひ、深、相、素、る、は、交、り、に、團、乃

軍、武、震、ひ、世、と、と、下、に、強、勢、せ、り、秀、長、秀、次、の、兩、お、り、又、大、軍、を、引、津

長、曾、我、部、新、右、衛、門、親、妻、う、籠、る、和、氣、乃、城、押、せ、竹、葉、と、安、益、并、禮、と、然

こ、け、城、が、一、と、本、と、附、う、竹、葉、兵、急、と、攻、討、し、然、長、曾、我、部、親、妻、乃、州

こ、け、城、が、一、と、本、と、附、う、竹、葉、兵、急、と、攻、討、し、然、長、曾、我、部、親、妻、乃、州



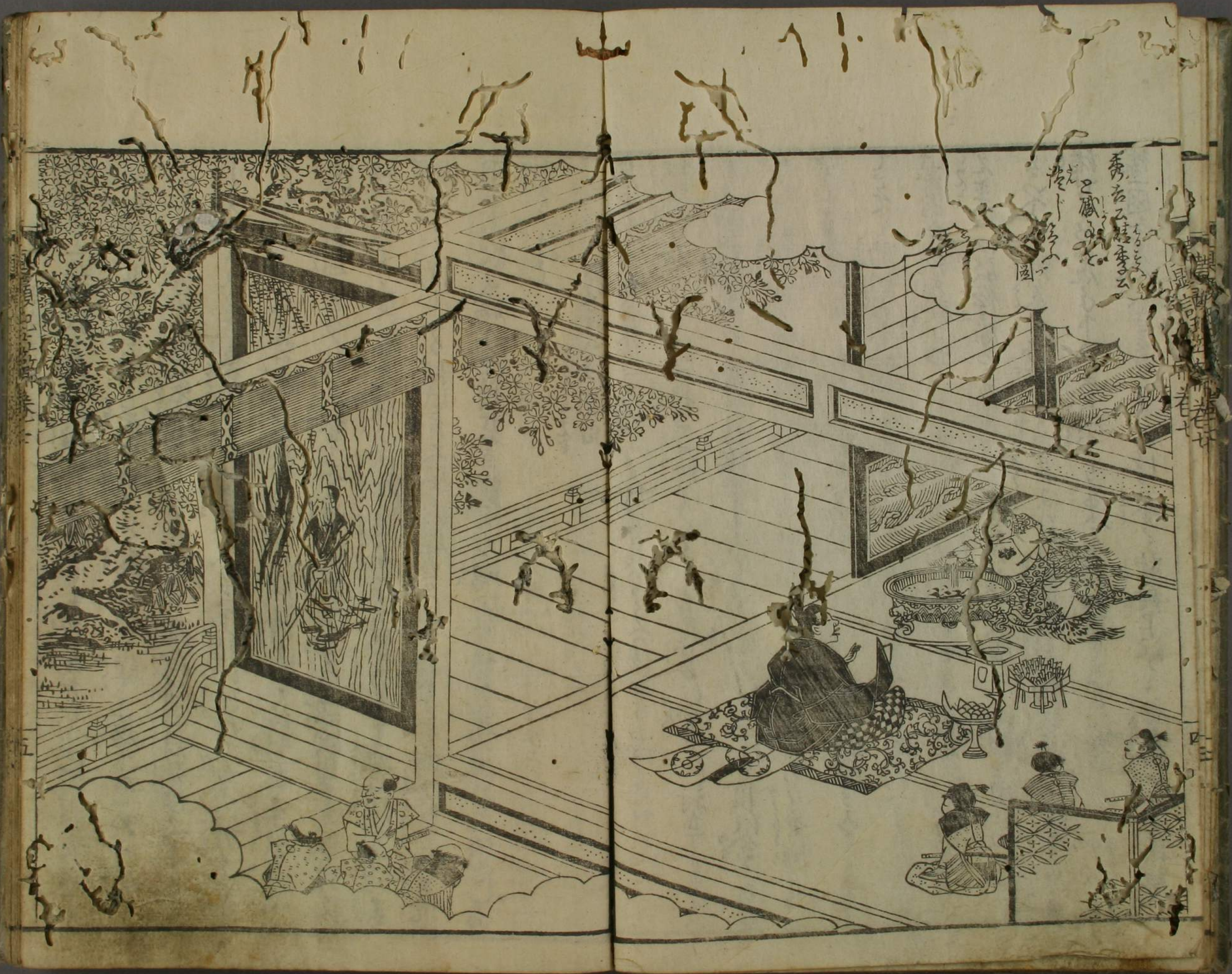


和氣の城
知元

和氣の城
知元

引合り三ノ方より勝り一ノ宮の城と云冊と敵を討て守り
 者宮内浦元親が防に杜絶九津門より余騎と籠るが口と云ら
 禦の志はま石と也我は後事をも負死人を知らば云々
 我々長曾我部元親に万余騎を率て依り白地と出張諸方の
 味方後兵と出後と信く奇角とぬ時大坂より秀吉云乃御後二の宮の
 陣あり来り元親の強勇の若等困の敵ありは勝致心先く思召の同進
 秀吉に聞し御出馬ありこの御り云々秀吉長秀次西大府より尾友
 甚右衛門を以て大坂を登城せし軍の陣ありの陣を委細しこれを上げ
 引合致し相いへて又御心と苦め終る及び近日に國平定又目出度
 凱歌を唱へしと言じたるは秀吉と云々と云ひ終り尾友の御出馬あり
 一ノ宮より尚軍令等御合らるる御願終りたるは尾友の御出馬あり

秀吉の御出馬ありと云々を以て御心と苦め終る及び近日に國平定又目出度
 凱歌を唱へしと言じたるは秀吉と云々と云ひ終り尾友の御出馬あり
 一ノ宮より尚軍令等御合らるる御願終りたるは尾友の御出馬あり
 秀吉の御出馬ありと云々を以て御心と苦め終る及び近日に國平定又目出度
 凱歌を唱へしと言じたるは秀吉と云々と云ひ終り尾友の御出馬あり
 一ノ宮より尚軍令等御合らるる御願終りたるは尾友の御出馬あり



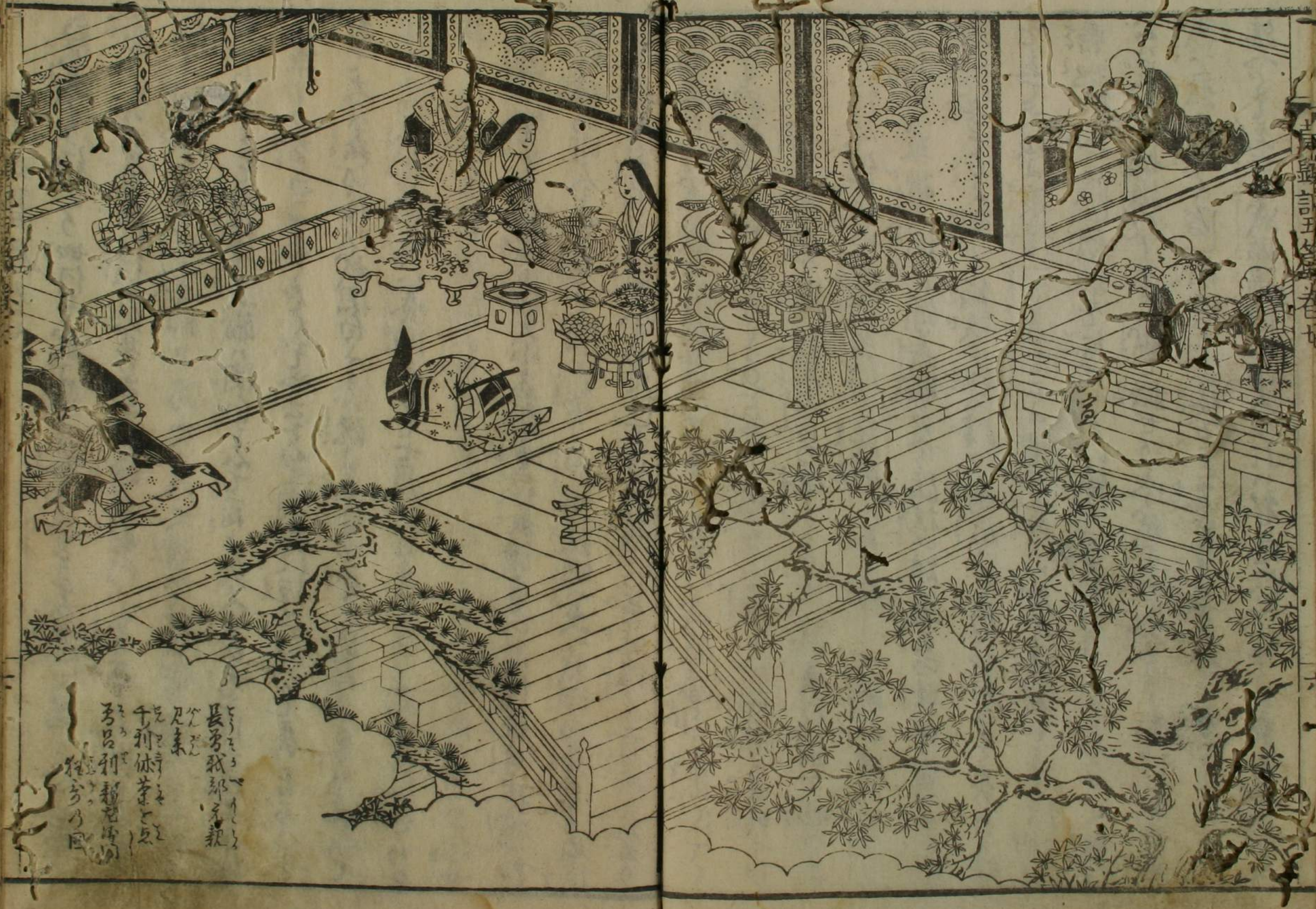
秀吉云
己威
之威
也

豊臣
秀吉
卷七

向みまより西に及び、
 寛仁の西、
 思節、
 中流、
 これと、
 及、
 如、
 國、
 登り、

秀長秀次

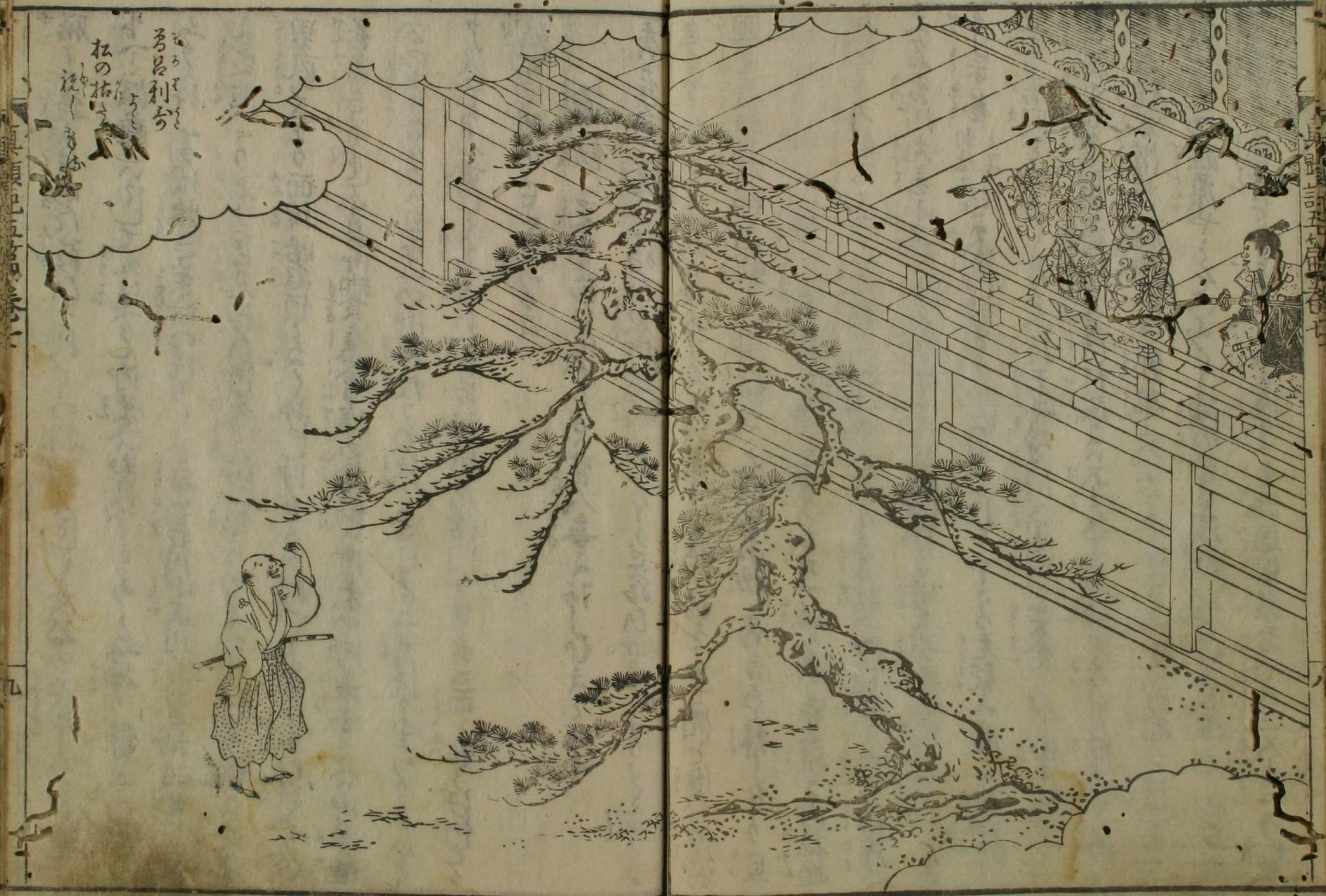
于時天正三年秋七月羽柴内大臣秀長、
 此も別強の、
 是利のお軍權大納言源義昭、
 照元、
 帝都、
 職と、
 法、



青島言五卷七

長考我郎元親
見素
千利休茶と
秀呂利親也
雅方の風

遠より経る如何哉細と細くしるの甚しき事と云々
 趣よ奉りての云に後ハ庚吉云々晴と想ひて菊亭大納言晴吉
 卿と相識し後晴吉卿中治云々乃大膽を以てお軍機を義昭に
 需らふこと心得のま穢い関白を以て司と人臣のる爵士民の宗仰
 お軍よ考きしゆいぐぞや云とて関白に任せはへん奉吉云々を
 打て大はび給ひ我関白より既よ平吉の厚も是とすと定よ抄ひて
 晴吉卿此有極廷に奏聞ありて七月十一日奉吉云と関白に任せらる
 其外清俊と云々各爵位昇進せり云々いふく奉吉云々令城の内よ大宴
 と僧と賀とすは遠近の大小名郡を村長諸寺の僧徒社司社職及び
 大坂堺の町人をも悉く酒と楊り山海の滋味い文之我國の産物も遠
 きる藤園唐土の其國人もせしと思へ種々の美味堆く肴積り
 奉若く額羅き婦女に又十人差のぶく振い酌を以て酒と進む古伝の
 國より長曾我部元親とけ附始めて大坂よ系勅奉吉云と拜なり且
 執とるゆい小神十を向銀子兩一文字のちカ一振之奉吉云殊に御披露
 藩く元親と云の上は濃く神妙のまことと厚情の御河敷く楊り日席の
 大なる吉川元妻小又川澄系と云々酒飲執り及て黄令の向へ呼入れたる
 千宗易初体居士と号し今し茶と色せめてこれを下る元親み難く願ひて
 其河居親とつりく見らる程天昇降障子悉く黄令とて髪付けたり
 莊柳の影を地の前縁を慶打戻り又云々の依依せを以て緋砂と慶く
 布き佳本權茶菊此にて野梅よいぶとくはしもの元親膽を懐くある
 其ひじの庄殿やと云ふく海帆のまはれ依依して居たりなる此附
 諸國より奉吉云々はれ丸登城せりそ城通俗駭發七三三三三三乃御食

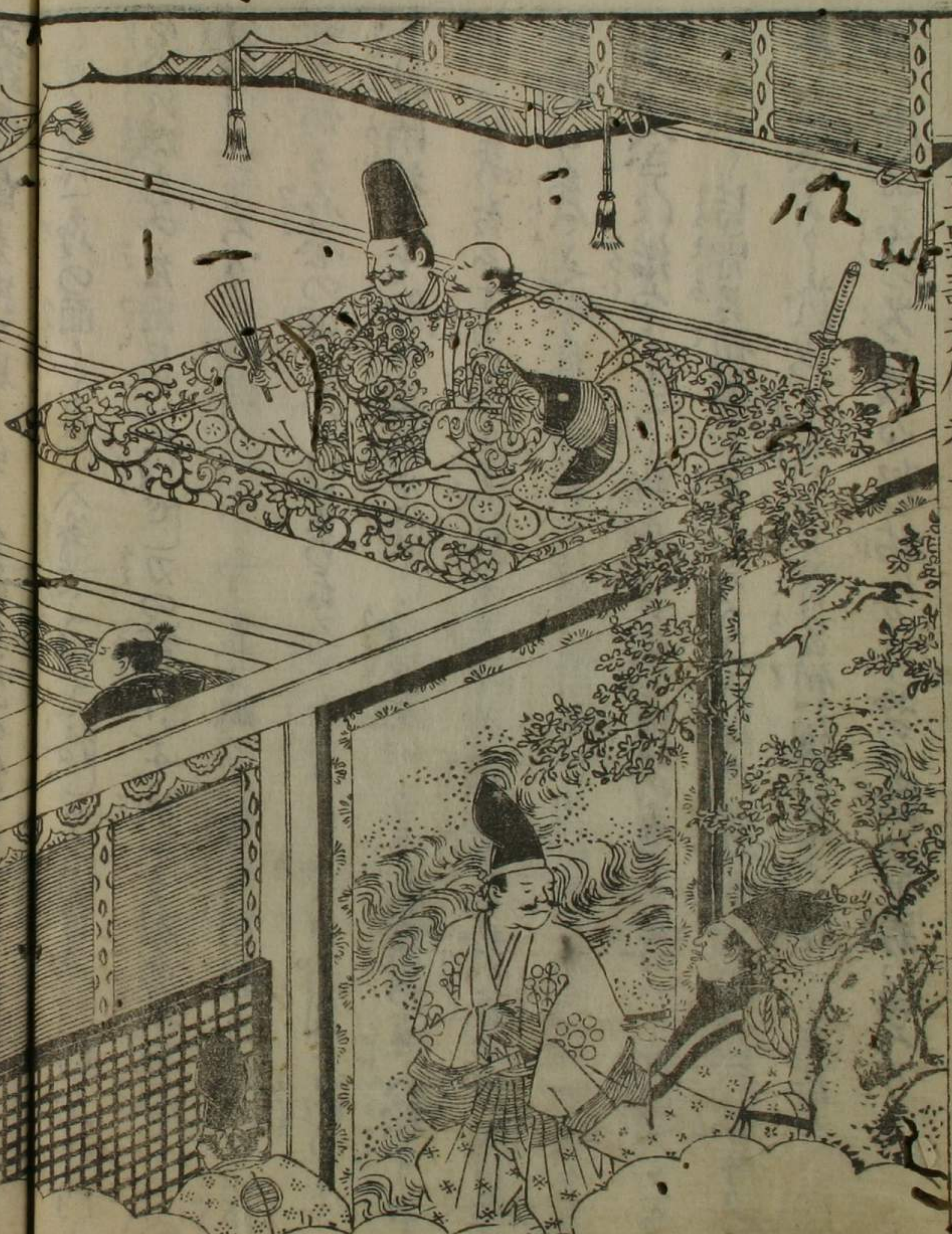


松の枯
流るる
君昌利分

新編
御成敗式目
卷之七



そろり
るる
殿下の耳と
奥の
福と
園



真景言五竹庵卷七

秀吉の御感ありて御を況しやされ曾呂利も黄令とせし作
 るるに曾呂利謹で歌をやげぬ難きは合とてやけり思れぬ
 只今御令と拜候仕りより日毎に君の御耳と嗅せ給ふ御令に勝
 りぬ難うとんとやとられ殿中可矣思ふ海が屋に仕る同心の儀は
 ばしと偽るる小曾呂利甚取ひ添く専心謝しうとるまより後諸國
 の大名小名登壇して御同士の御心どけ曾呂利秀吉の御側あり
 て御耳と嗅るる御國の大小名とて我身の身を嗅きやとるやと心え
 たりとひつて内遣し君于の令根と曾呂利も送る御前の儀より
 しく難ねる有御毎に御山乃とて御徳付御有の身とみり
 こそ殿中へ仕候し御例の曾呂利が撰えこそ御しられそ羨ひぬ
 又或は高き擡と好むとせ給ひ御相傳の衆中へ御しられぬ
 曾呂利秀吉の書とありて

くらげの御し眉のそはがごとくくもれど御がかりたり
 名月の夜御遊留の掌御次の向は宿屋に居る小曾呂利も御前より
 やりたる御振きを方外宵狂言と申すは名月御月が御道て
 御前よりあそやけちらんまいつやの御遊もてし御も向るに御
 ばしと偽るる小曾呂利も名月の夜とて御前より羨らるるに曾呂
 利言とばせ給ふりて
 くらげの御し眉のそはがごとくくもれど御がかりたり
 名月の夜御遊留の掌御次の向は宿屋に居る小曾呂利も御前より
 やりたる御振きを方外宵狂言と申すは名月御月が御道て
 御前よりあそやけちらんまいつやの御遊もてし御も向るに御
 ばしと偽るる小曾呂利も名月の夜とて御前より羨らるるに曾呂
 利言とばせ給ふりて
 くらげの御し眉のそはがごとくくもれど御がかりたり
 名月の夜御遊留の掌御次の向は宿屋に居る小曾呂利も御前より
 やりたる御振きを方外宵狂言と申すは名月御月が御道て
 御前よりあそやけちらんまいつやの御遊もてし御も向るに御
 ばしと偽るる小曾呂利も名月の夜とて御前より羨らるるに曾呂
 利言とばせ給ふりて



真蹟記五篇卷七

曾
呂
萬



真蹟記五篇卷七

十一

と宮の御みまを以て法印進んで出てきたるに時頼の其の院に於ては
 室の諸州と巡りせしむるに（侍）は君今より侍の身は御身を以て
 豈うろくして天下と好脚し給えや秀吉に宣つて日本國に我嘗中に
 降しく何ぞ我を敵と看みんやとて又よまに侍の身は御身を以て
 多は此時曾呂利御前に出くやるに拙者には所頼のゆりく河原
 後王山光の魔不動多き事有仕たり」と云く給ひしより又方々飛鳥之
 左衛門と云ふ居りし魔の辺より其長衣を穿たりとては「き要鬼出現
 し指し我を執りて去り既にお別れ喰ひんとし我御拙者鬼の面の中は
 天啓別鬼やとてうる鬼に敵と云き我平日事怪のゆりく心と好む
 今好鬼のよるに汝を日々く目比の事儀を述し死にしむるは眼もは
 心乃ほみ食し給えとてし今世の心ひおに今一度徳を履し梅の實を採

の實の心は梅の實にして見せ給ふを後心まうせに我命と云はしと云つる
 と彼鬼の心もさしとて思ひしに大鬼の心もさしとて梅子と此より我
 とおてめたる哉とて参上し梅子と指しつとてよく口のうら
 押入らうとて嚙みき真の腹はぬとて通力自在の鬼の心もさしとて
 こいぞれ梅の實とて拙者が後中より梅の實と云ふゆりくは道士の心く
 大きに梅の實とて其の甚しき虚説哉とて嘲り多て退物れをば日秀吉
 と諸おふひの梅の實の心もさしとて曾呂利が荒唐語へて笑ふるやと
 皆散て言ふるゆりくは「秀吉に宣く「拙者梅の實と云ふは梅の實なり
 我威勢天下に思ふべき者なり長衣の鬼の心とてさしとて一人梅
 園を好脚せしむる梅子は何ぞ美かしくん勿庸人の心も腹せらばは
 梅の實の心止むと宣ひしに諸お皆感歎する其外紙袋と云ふ倉

より本堂の叫びて秀吉云ひてとせたりと皆人の判れざるを
を家へいりて一代の事なり奉て善くし一帯有利無利の事にて記せんとし秀
吉云ふと後をいふ病と回せ給ふ曾呂利の事なりと後又向ひ利なき病
をまゝに命具あり片後直して以ては冥途に用はつて信長を
以てしては終つて相成りて秀吉云ひては「今増の期と雖もや
まゝに信長もいふ通給ひ」ぞの難き次第なりき

佐く成政文く叙

信長云の四臣佐く隆興守成政の城中富山の城よりして勇武雄倫
の別れと去る天正十一年三月柴田勝家勝て合戦の初し其刃柴田が
幕下なる小隊と二万三千人の軍兵とも「率」領する大陣と出陣せしむ
勝家怒り成戦し小園秀吉の威風は靡き流しぬと一人幸と斗るた
始終合戦の終つてと思惟し「幸」成戦とあり秀吉は和を乞ひ成戦とあり
恒「」ろ拙る小隊多し二月より秀吉は信雄卿とそ中牟掬ひ及び
合戦及びぬぬの山峠信雄より諸國の大名へ福られ秀吉は信長の後
中合戦多しと出陣秀吉の威勢凄くぬぬと成戦とあり信雄は「味せり
け耐佐く成政大きに憐れ秀吉は西の身として君の君は信雄殿み
款對せる東海せどいふ有るは既に出陣の用意とありけるが小園雪原
くして上洛するも先隣國の摩惠多事あり秀吉は「西」の味あり
を渠と討にけり後上洛し「」と成戦二月摩惠多の勇兵奥村助
右衛門が籠る末森の城と秀吉は「」成政軍急なる勇兵あり
不承不承は後浩せざる由はけ城と秀吉は「」と成戦とあり
一時は成戦と成戦し「」自身は先は馬と驅し「」經兵急は取らるる

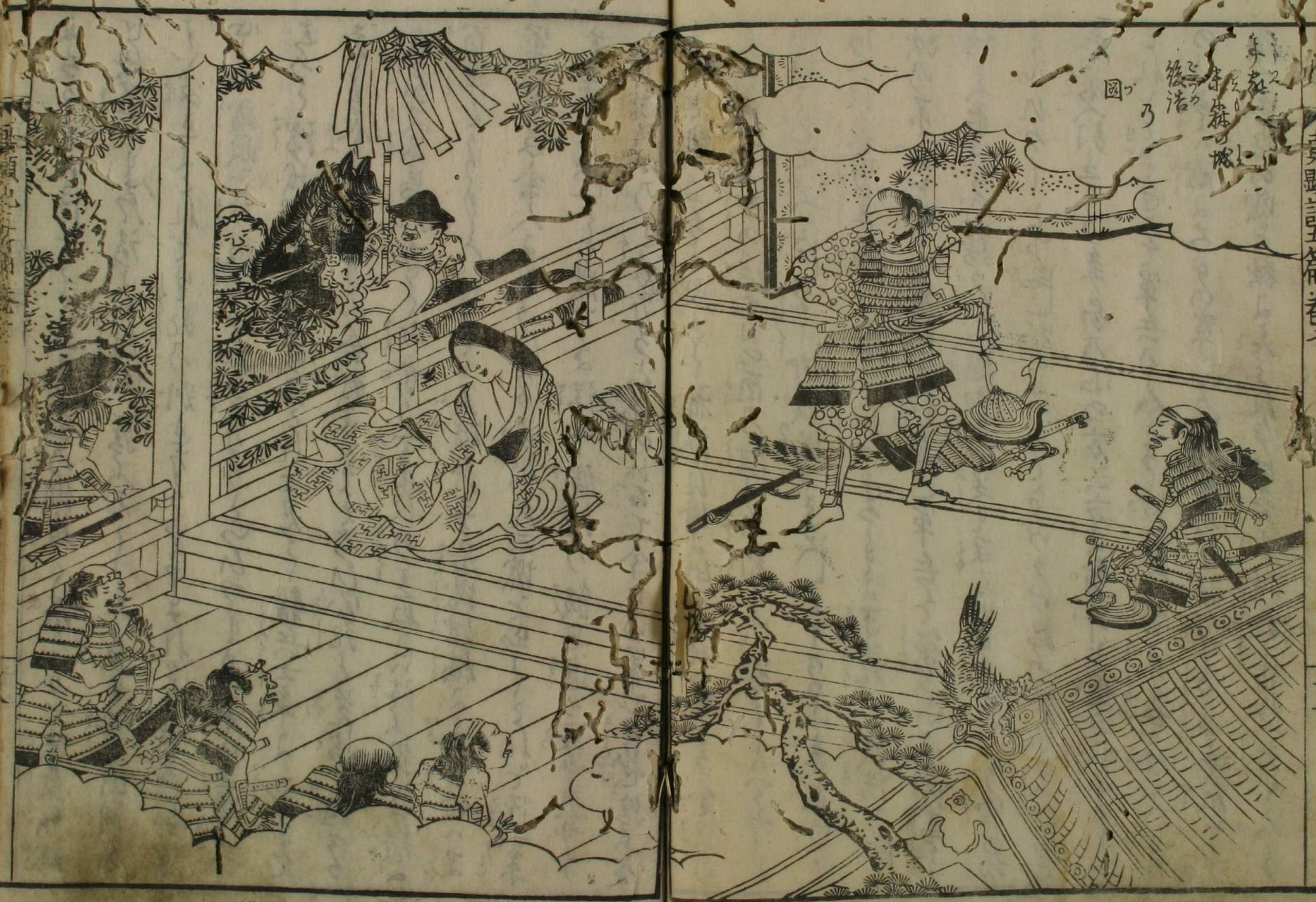


奥村助右衛門
七平と
妻
願人
園

奥村助右衛門

城の奥に石の門僅に二百餘人の士年々おかしき家と伝ふるにせしが
 我々も日本小舎の政が大軍切とて討つるに足らぬに三三三三三三
 及び三三三三三三と改破らるるを丸に閉籠り死にせんとし防ぎたるに
 け城今とて人々くく人々くは城の助右門に今これまをかり
 自害せむと申すに助右門兼小橋といふ侍をもち刀横
 之中女も命じて殺し梶桶の令せ城内の軍兵尤も自らこのまを
 且勇つて中に入り若柳の城と申す人々くく大なる城なる小城に
 籠り日本國の軍兵は皆敵に引け堅固な籠城しつるを伝ふる
 け城今幸急りつるに明日の必多お卿の後詰をいふを
 き小只お殿さう防ぎ給ふといひて夜とていふお卿の助右門
 城の奥に石の門僅に二百餘人の士年々おかしき家と伝ふるにせしが
 我々も日本小舎の政が大軍切とて討つるに足らぬに三三三三三三
 及び三三三三三三と改破らるるを丸に閉籠り死にせんとし防ぎたるに
 け城今とて人々くく人々くは城の助右門に今これまをかり
 自害せむと申すに助右門兼小橋といふ侍をもち刀横
 之中女も命じて殺し梶桶の令せ城内の軍兵尤も自らこのまを
 且勇つて中に入り若柳の城と申す人々くく大なる城なる小城に
 籠り日本國の軍兵は皆敵に引け堅固な籠城しつるを伝ふる
 け城今幸急りつるに明日の必多お卿の後詰をいふを
 き小只お殿さう防ぎ給ふといひて夜とていふお卿の助右門

真跡記五篇卷七



国ッ
 乃
 後
 活
 守
 森
 の
 城
 山

士 眞 顯 三 臣 三 介 所 登 七

七

其は若し... 又多家の側道く居よりて... 討死し終る... 多長母が...
心や成政に打破ん... 雑兵士乗... 死に... 是の...
軍勢一ふ余入... 飯と道... 中... 軍兵...
先... 乃... 軍... 終る

十倉... 伏... 懐... 書物... 出...
此の... 伏... 今... 日... 之... 時...
討勝... 勇... 川... 里...
門... 守... 惠... 治... 片... 山... 内... 脂... 其... 次... 田... 村... 三... 郎...
治... 郎... 三... 兵... 湯... 近... 辰... 右... 津... 門... 磨... 多... 治... 郎... 多... 難... 本... と
守... 三... 百... 余... 人... 末... 森... として... 急... 去... 去... 末... 森... の... 城...

今よりよと月々なる軍兵助右衛門馳せらるる
 又戦ふ所は乃の方よりあつて船場乃それ間より多敷御の馬
 印はよひるよりて月々なれば城中大なる勇手を得て喚き叫んで
 陣をわたり多敷の先陣と依り勢の後ろより切てこれに陣の難
 又突てより勝負と一討は突てんと死を争ふて戦ふよぞ城中より
 奥村助右衛門城戸と開いて討て出に獲て搦より多依り城政が軍
 兵きのより戦ひはつきてこれ多敷が新に勢は出り難くせんぐ
 又後援 陣中乃尾傍と城成政軍と後軍と集り摩惠多勢勝は
 系て追索はつて「よ」多敷と討て」と備と立ておろるるは多敷
 又半の勢はつておろるるは多敷と討て」と備と立ておろるるは多敷
 又半の勢はつておろるるは多敷と討て」と備と立ておろるるは多敷



図

止たすむと余の軍士と懸渡送(れ)隊と圍はてる中ひらる

るら安之(れ)紙後(り)青山(り)城(り)上(り)括(り)彈(り)弓(り)弱(り)勝(り)の(り)其(り)乘(り)表(り)捷(り)勇(り)武(り)小(り)國(り)よ

震(り)驚(り)お(り)かり(り)たる(り)秀(り)吉(り)佐(り)摩(り)惠(り)多(り)換(り)敵(り)の(り)次(り)牙(り)を(り)受(り)て(り)勝(り)と

討(り)つ(り)政(り)と(り)討(り)め(り)んと(り)九(り)月(り)中(り)旬(り)本(り)村(り)と(り)右(り)邊(り)門(り)を(り)殺(り)し(り)紙(り)後(り)の(り)柳(り)

妙(り)樂(り)寺(り)と(り)倍(り)し(り)勝(り)つ(り)刺(り)害(り)以(り)説(り)く(り)佐(り)と(り)討(り)む(り)勝(り)元(り)來(り)故(り)謙(り)信(り)

敵(り)の(り)所(り)と(り)十(り)余(り)ヶ(り)國(り)と(り)切(り)陸(り)小(り)國(り)威(り)と(り)震(り)ひ(り)り(り)が(り)後(り)或(り)小(り)田(り)家(り)

か(り)と(り)ら(り)も(り)本(り)教(り)寺(り)に(り)押(り)込(り)せ(り)られ(り)且(り)敵(り)軍(り)の(り)軍(り)あ(り)す(り)と(り)あ(り)く(り)國(り)多(り)く(り)

先(り)の(り)由(り)也(り)兼(り)て(り)隣(り)國(り)と(り)切(り)多(り)志(り)あり(り)討(り)る(り)れ(り)子(り)逃(り)令(り)儀(り)日(り)十(り)月(り)廿

三(り)日(り)八(り)余(り)誘(り)と(り)引(り)率(り)紙(り)中(り)發(り)向(り)日(り)廿(り)六(り)日(り)佐(り)が(り)幕(り)中(り)乃(り)お(り)益(り)本(り)中

敵(り)軍(り)は(り)官(り)傍(り)の(り)城(り)押(り)よ(り)り(り)終(り)て(り)城(り)と(り)裏(り)庭(り)と(り)入(り)り(り)て(り)紙(り)中(り)を(り)

守(り)加(り)加(り)紙(り)後(り)の(り)勢(り)を(り)判(り)け(り)紙(り)の(り)頗(り)難(り)儀(り)たり(り)由(り)月(り)廿(り)日(り)信(り)雄(り)秀(り)吉(り)

和(り)睦(り)あり(り)て(り)申(り)秀(り)吉(り)大(り)軍(り)と(り)引(り)率(り)佐(り)と(り)殊(り)依(り)の(り)お(り)紙(り)中(り)發(り)向(り)は(り)依(り)

と(り)り(り)に(り)時(り)た(り)れ(り)が(り)政(り)大(り)き(り)に(り)勢(り)き(り)柔(り)弱(り)愚(り)昧(り)の(り)信(り)雄(り)殿(り)秀(り)吉(り)と(り)欺(り)さ

終(り)に(り)猿(り)面(り)良(り)が(り)幕(り)中(り)の(り)膝(り)と(り)り(り)先(り)君(り)信(り)長(り)云(り)乃(り)貞(り)業(り)は(り)小(り)田(り)の(り)英(り)名(り)安(り)よ

賦(り)こ(り)つ(り)て(り)口(り)借(り)れ(り)秀(り)吉(り)我(り)と(り)勝(り)負(り)を(り)試(り)ん(り)ぶ(り)由(り)國(り)を(り)來(り)る(り)を(り)考(り)ふ(り)れ

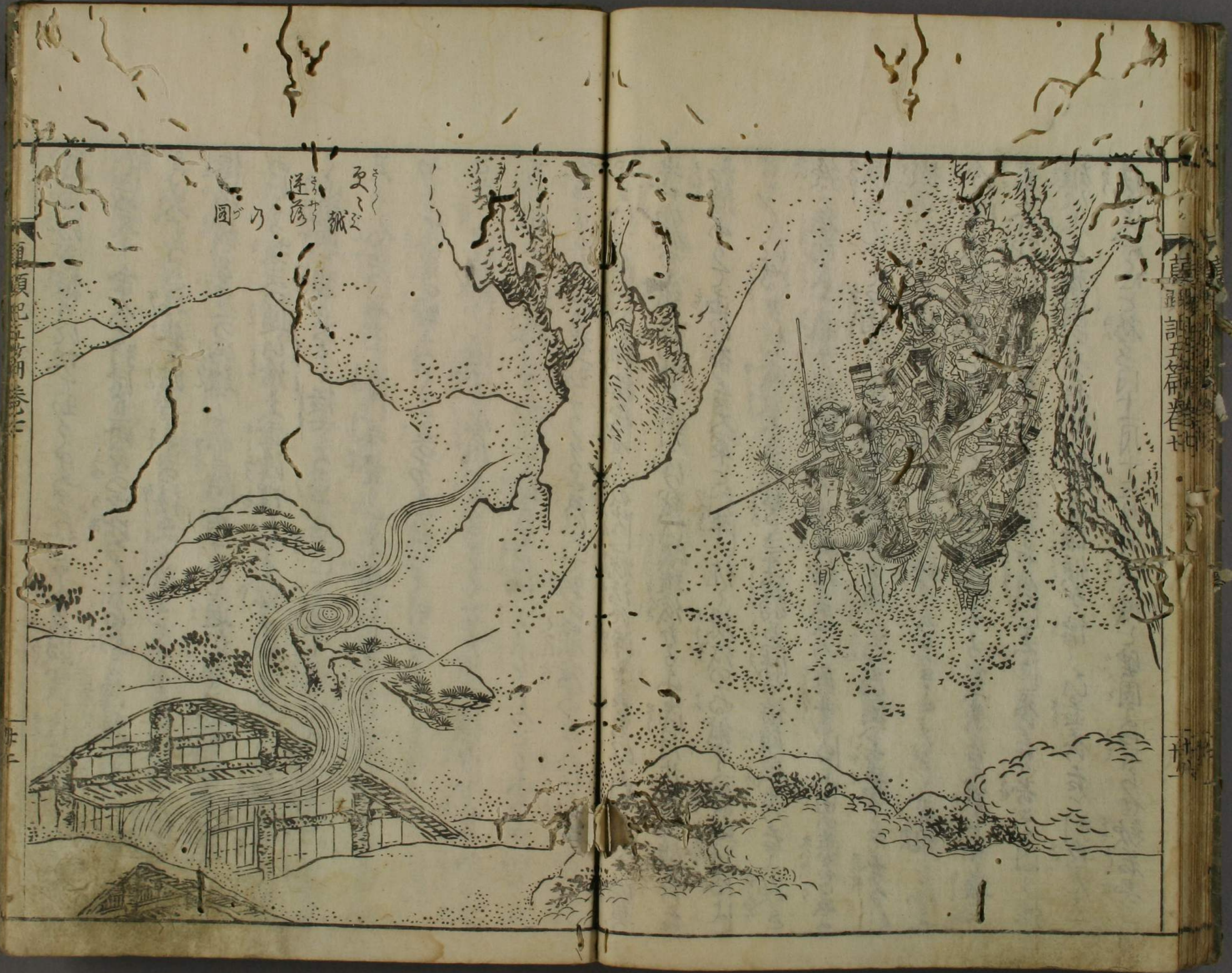
擧(り)げ(り)ぬ(り)ら(り)し(り)捨(り)き(り)ぞ(り)と(り)踊(り)り(り)より(り)て(り)怒(り)り(り)たる(り)が(り)ま(り)ま(り)しく(り)思(り)惟(り)と(り)ふ(り)

今(り)摩(り)惠(り)多(り)と(り)扱(り)を(り)敵(り)に(り)引(り)け(り)合(り)紙(り)中(り)ち(り)る(り)亦(り)秀(り)吉(り)大(り)軍(り)と(り)引(り)率(り)

来(り)り(り)外(り)に(り)助(り)け(り)の(り)勢(り)あり(り)て(り)我(り)軍(り)打(り)負(り)べ(り)と(り)志(り)す(り)秀(り)吉(り)が(り)あ(り)る(り)内(り)に(り)信

雄(り)の(り)志(り)を(り)隣(り)國(り)の(り)天(り)下(り)我(り)と(り)親(り)し(り)諸(り)候(り)を(り)倍(り)し(り)て(り)秀(り)吉(り)と(り)引(り)包(り)ん(り)

後(り)送(り)と(り)志(り)と(り)扱(り)日(り)十(り)三(り)日(り)安(り)山(り)の(り)城(り)と(り)豊(り)國(り)を(り)守(り)ら(り)せ(り)敵(り)若(り)秀(り)吉(り)は



更々
洋落
園乃

真
語
五
卷
七

真
語
五
卷
七

七

七

酒のつぎ根に切て出るるにさし合ら腹心の近建部兵衛次と
 せしり又十余人を討はし所冬の中はうらむ白め降膝教士の雪を踏
 せけるにさし根と漢山山侍交り城まそくやうけ所城申より
 信次城の第一の漢羅と雪清所ふも通い難き切あちふ後
 あけたる撫まの通い治え雪降懼んでそ然るにうらうのけ交を甚
 け山面と烈まそく後士も方と階と一足進もうのう城及び侍と
 かんく人家やあると幸に拳登りて見渡せば南の方の棟屋に人の侍と
 かりて竈の煙をぐよまのちまはいと行てまぐくはるまを体は
 と巖に接りし源雪屋戸とまるとくからぬま後多と合を橋よ京
 てどつと一は又逃るるふじし根より雪まるとのふれしをち
 柳葉かりり人のあわたりるまに又七の崩落ありて侍人棟屋の
 きたぐんくをんく甚後三行交のくそくはんをさし源の根を
 て海舟を懐むつを建部兵衛次教士とて中はいそちの近三團
 守にばあゆ所方ちが信次訪は急乃所後雪多ゆい雪よると踏ま
 しい不男も安に毒りり今雪の所宿を侍明日のたの葉肉をくさ
 しそ合根と名物まそくとまそくは里人ほび謹ぶ平伏兼屋の
 何を掃掃めまそくとはははれどうは源山乃侍居るに侍進むき
 食物もかく懐のまのまき飯のゆりるかやうてはし知れん人飢
 はあこれどろぐに食し終り叔酒やあると歸り又老翁遠くけ
 又いれどれまより十余所去て人里乃はそれ酒酒のいもれさく人を
 死て調めせよそそ價とまそく若き者とまらを被浴り酒三斗より
 寄来り成政をばしり下の子奉養おはるまそくと温りまよめくまそく

葛野言五篇卷七

十一



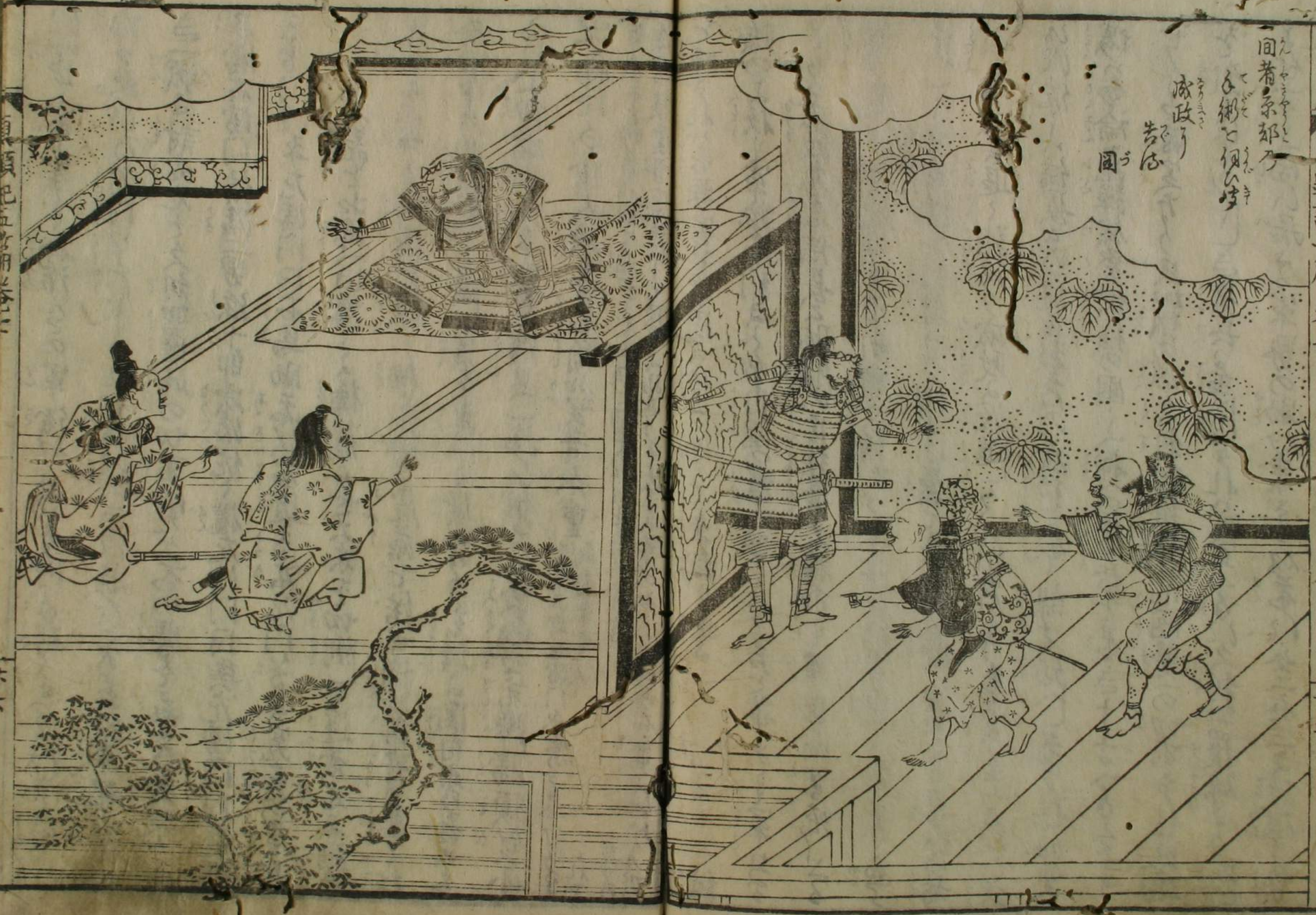
水政を後
湯酒と
えん
て
國

真言五輪卷七

とて凌ぎしより明とは必政を後そなふまきつらそ急ぎ日を経て信長上
 領防の端はけりし諸方の大名に夜役をきく甲斐駿河の國を一味
 武を信長し秀吉も東へ合せて討たんとまじく軍もさ
 ますり尾上信則より心高信雄卿は信長と信吉とに天下と争ひして
 將軍とはあはれごれ計略と懐し合せて信吉と踏を誠中宿るに
 誠中宿る

秀吉に誠中後向津通川合戦

依り隆奥守成政より又誠と經て一味の武士も公藤國は信長
 尚秀もこの勅靜と親んと天心十三季六月去の日のと教十人と擁ひて
 誠高人数を依り養者浪人なりて依りは京大坂を御田上り上方の
 子御と相ひつけ財庫惠多家の功臣奥村村丹など依り方より合戦
 と眺むるに各要害を堅固に守り城に多戦り止るるをさすりて誠
 後の上板軍勢を引まじり内圍の境に各要害を構えり軍兵も
 軍兵も政元も信長も腹股の区強勇大膽亦軍幸に習練する
 兵がれば上板軍惠多の形勢心得かるところの傍をばく計策と
 長しそ各信を結居りし城より棄て京大坂へ登り最うおびの者
 軍兵も追く馳ゆり成政は遠進しよるに夜秀吉軍と親ひて
 ひに依り信長の龍尾教房の武功と謀才ゆき者れば加加
 懐い勿論飛弾後登城後の困り押の軍兵を並き十方へおび
 せんも必死方り只加加の懐利加羅陣の心圍身一切をれば
 を教のいさぐじき守兵の長はたる大軍も利加羅陣より後
 して方より向い居る軍勢の助け棄るる以茶に各二各三と被破り勢



同者系部乃
心郷と何人
成政了
告心
同

以きて富とまぐ押浩との軍後ひ久しを御ひ破りまうはしと返り
 悔る悲びの若門はよに中々れい海政大まにほび秀吉の軍配とくじ
 三戦は討たんと久利加羅津の切面は九ヶ所の帯を懸き成政が去
 子勝右勝門信治一勇孫十郎成治依く權九勝門は與九勝門は九郎
 九勝門は平九勝門は右馬助赤沢右近も本九門等も宛秀吉の軍兵
 石を穿て細橋と渡し柵を振り虎落と結せ諸方の守り懸くお
 捨國甲の別兵敷を圍し雲を奪いと雲のそり去り國白秀吉をこ
 八上旬諸國の軍勢と借込し城の中へ殺向ひ先陣勝須賀小
 以郎にみ余人次も是角加賀守永重是角八郎九勝門永秀が息なり又永重平は積利也りて甚くと
 腹を穿てあり秀吉もこれを刀指ひ是實の事也
 一万余人討たれり
 曰く余人は九勝門督秀政八み余人は多し家かを二万又み
 余人は秀吉も乃本陣又畿内の軍兵二万又み余人は勝須賀を圍す
 殺向ひる元素秀吉云信を惟握り中は信に勝つをみ里の外は安と
 名おるれい久利加羅津より押破るとの軍兵は信の計策にて
 枕の御所のりんをを懸し徳と京大飯とを同安をるく唱
 歌の御所りと相遠せしん秀吉云乃明智加賀國とて先々の勢
 又み余人は秀吉とひれぬみ生瓢軍の馬印と其中へ押す久利加羅
 津推し秀吉云旗本の勢二万余騎は摩惠多みつが勢一万
 又み余人は彼見は石乃軍勢と引陣し城は徳登國向ひ石動の
 出陣より兵船は石乃軍勢と引陣し城は徳登國向ひ石動の

し武屋悉く放火して中に家心の燃へる所とぞ勇と給へし
 政是と云々大に移るる所を構へ我勢と之利加羅作引
 却自らけし押寄り我と唯雄と交せんと争ふ事なれど
 我何れを秀右の後冠者と思ふべきや實に素りして我幸ひ
 爾小後を捕まへんと城中の勢に多金勝りし由城と出
 神傳しを承りてきてきて引て待つに秀右の御勢に掃
 佐くが奉陣と系流とんと摩惠多より先と打ち旗本に
 至計以後流九流門を捕片拍市に漕谷内藤正備坂中勢を
 在是女平野遠のををにじりし若後 12 万余騎大勝の
 大なる雄の兵を六河川中へ入し入るに三三三三三三
 村を合せり我砲を雨より撃つてと打ち合はれ先て進
 上方勢百余人河中打倒され水を洗ひて小園勢を
 小園を焼く槍爪搦て突きとばし上方勢困らしむる
 多し子なきの怒りきたりし者乃ち換や款小勢を
 を見らるやけ川と押寄り芝居と立て我や大軍一度よ
 勝せば旗本の勢我くと得物くと退きて我に推し
 海軍の勢送りしけ方の岸に追寄りしに度活はぬ
 成政韋詰天の荒る形勢と馬と陣取軍の勝勢は
 かに物物の上方の弱兵と川中(実流)を進めし
 縦横とゆきし況に川中の歌とんぐは打倒せし小園勢
 りの我にぞまじりし後進と切し実を顧みし退し
 計を採合する時不恩後や一陣の煙火は吹起り川水と
 上げ石を落

し武屋悉く放火して中に家心の燃へる所とぞ勇と給へし
 政是と云々大に移るる所を構へ我勢と之利加羅作引
 却自らけし押寄り我と唯雄と交せんと争ふ事なれど
 我何れを秀右の後冠者と思ふべきや實に素りして我幸ひ
 爾小後を捕まへんと城中の勢に多金勝りし由城と出
 神傳しを承りてきてきて引て待つに秀右の御勢に掃
 佐くが奉陣と系流とんと摩惠多より先と打ち旗本に
 至計以後流九流門を捕片拍市に漕谷内藤正備坂中勢を
 在是女平野遠のををにじりし若後 12 万余騎大勝の
 大なる雄の兵を六河川中へ入し入るに三三三三三三
 村を合せり我砲を雨より撃つてと打ち合はれ先て進
 上方勢百余人河中打倒され水を洗ひて小園勢を
 小園を焼く槍爪搦て突きとばし上方勢困らしむる
 多し子なきの怒りきたりし者乃ち換や款小勢を
 を見らるやけ川と押寄り芝居と立て我や大軍一度よ
 勝せば旗本の勢我くと得物くと退きて我に推し
 海軍の勢送りしけ方の岸に追寄りしに度活はぬ
 成政韋詰天の荒る形勢と馬と陣取軍の勝勢は
 かに物物の上方の弱兵と川中(実流)を進めし
 縦横とゆきし況に川中の歌とんぐは打倒せし小園勢
 りの我にぞまじりし後進と切し実を顧みし退し
 計を採合する時不恩後や一陣の煙火は吹起り川水と
 上げ石を落

真蹟言五篇卷七

十一



我合多門通了淋

妖
怪
乃
圖

真
顯
言
五
符
卷
七

小國勢の雄指袖とてふくこと吹おち凡面と雖難く槍先突く崩さんと
 城政この口備と控踏なるに方と吃と見後せば神通川の氷と異腹村の候より
 二面は怪けの世「き」息のふれ刀と折身は控と居「幾」百万と入限りなく王に
 夢の地はえておろくと因と仰り城政と目くけ漱来るはじり強きの仇、城政
 冷行とろと流出金身水とそくか如心神丸と魂散「馬」よりとて居りる
 仇、良きまの夢て肩よりくけ奉城として遊歩は小國の陣、依り粉のど
 丸と證さまきりりく引約と道は「ま」こと方勢固と仰つて難まれば死に
 乃ら孤は「頻」に「殿」て退討よそ仇く軍兵跡かく討るされ奉て城中「引」へ
 己に「密」に防敵とんべ秀吉の所勢は城の巨方と十手廿手ふは固、後炮と
 おろひ史著と放ら息とも終せは妻なるふぞ今にけ城脈つづる、力とさうり

繪本左圖記五篇卷之七終

47

